

令和2(2020)年度 第2回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和2年8月3日(月) 14時30分～16時30分
- 2 場 所 栃木県立日光明峰高等学校 図書館(南校舎2F)
- 3 出席者 委員11名(3名欠席)
その他栃木県教育委員会事務局から5名、本校事務局職員6名、他校教員1名
- 4 司 会 本校教頭
- 5 次 第
 - (1)開 会
 - (2)挨拶 (校長・栃木県教育委員)
 - (3)委員及び事務局紹介
 - (4)確認・報告 (下記6のとおり)
 - (5)会長及び副会長選任(下記7のとおり)
 - (6)協議(下記8のとおり)
 - (7)事務連絡(下記9のとおり)
 - (8)閉 会
- 6 確認・報告
 - (1)学校運営協議会会則及び内規について(確認)
 - (2)第1回学校運営協議会(資料開催)について(報告)
学校経営方針の承認:校長を除く13名すべての委員が承認
※委員からの意見報告
○委員からのおもな意見と校長の回答
 - ・細部にわたって見たときに目指す生徒像とのつながりや整合性はあるのか。
→次年度検討
 - ・「目指す生徒像」は、どこまで生徒自身が意識し、浸透しているのか。
→生徒と教職員に浸透させ、実践していくために以下のことを行った。
 - ①聴く・説く・挑むを目指す生徒像として立て、学校案内のチラシにも掲載した。
 - ②図解したプリントを全校集会で生徒に配布、説明した。
 - ③アンケートを実施、年度末にも実施し、意識付けの確認をする。
 - ④終業式から新しく生徒が生徒に「説く」試みを行っている。
 - (3)新型コロナウイルス感染症の影響に伴う学校運営について(報告)
 - ①臨時休業中の措置(課題郵送、電話連絡、家庭訪問)
 - ②学校再開後の感染症防止対策(健康観察、消毒、3密の回避)
 - ③令和2年度学校行事の見直し

休業中の生活・学習に関する生徒アンケートの実施

・休校中、勉強に不安があるという生徒もいたが、現在は全般的に落ち着いてすごしている。

[委員]

アンケートでネガティブな回答をした生徒に対してどのようなケアを行ったのか。

[本校職員]

担任より声掛けをした。また、希望する数名の生徒に対して面談を行った。

7 会長及び副会長選任

事務局案により会長が石井委員、副会長が鈴木委員に承認される

8 協 議

○会長より

入学者数が多ければよいということではなく、学校教育の内容についても提示して、周辺地域に示していくことも重要であると思う。

(1) 入学志願者の確保について

①校内（魅力化推進プロジェクト立ち上げ、オープンスクール実施）

[本校職員]

- ・明峰だよりの充実、学校パンフレットの魅力化を図っている。
- ・Youtube の利用、動画を制作しQRコードをパンフレットに載せるなど工夫を行っている。

②校外（中学校訪問、『明峰だより』発行、HPの活用）

[教頭]

- ・校長・教頭が主となり、上都賀地区25校、宇都宮地区6校の中学校を訪問した。
- ・日光明峰高校では生徒を大切に育てているイメージがあるなどの意見をいただいた。希望者がいる場合には来校してもらいたいと要望をいただいているので対応していきたい。また、通学についての意見をいただいたので、資料を示しながら説明を行った。

③県外（ウインタースポーツの支援、下宿生のケアと下宿先の確保）

[教頭]

- ・担任や顧問が下宿先を訪れ下宿生や管理人の方々とコミュニケーションをとっている。今後さらなる下宿先の確保が次年度の県外入学生について課題になる。

下宿生アンケート結果について

- ・サポーターハウスでの生活が生徒12名でスタートし、問題なく規則正しい生活ができている。

[委員]

- ・教員数が少ない中で先生方が明峰だよりの編集などで頑張っている上、新型コロナウイルスの影響でイレギュラーな業務も発生している、負担増が心配である。

[校長]

- ・本校における大きな課題の1つだと捉えている。教員の数が減る状況の中で学習指導・校務分掌と並行して動画制作まで行ってくれた。
- ・動画に関しては生徒会中心に制作してくれた。これまでの先生方の指導の積み重ねがあつての動画であると考えている。教員の働きかけに対して生徒からも反応があり、喜ばしい。
- ・先生方もやりがいを持ってやっていただいている中でバランスをとりながら調整し、教員数に関しては加配についての要望を県に提出する。

[委員]

- ・魅力化プロジェクトの先生方の頑張りがあって成り立っている。引き続き県の方に加配をお願いしたい。
- ・今後高校生と大学生が連携して課題解決の話し合いを行うなど協力をしたい。

(2) 日光市の H.C 栃木日光アイスバックスへの業務委託による本校存続の取組

[教頭]

- ・市の事業により、H.C 栃木日光アイスバックスから支援をいただけるということとなった。

① アイスホッケー部の支援（強化指定選手）

[委員]

- ・市内にプロチームがあり、高校と協力できればかなりの魅力になる。

[アイスホッケー部顧問]

- ・プロチームと公立高校が連携するにはハードルが高い。市の協力を得て実現することができた。メディアを用いるなどして外部発信を行っていく。

② 地域に根ざした生徒育成（国際理解、語学力向上、職業体験）

[教頭]

- ・国際理解に関する講演、テーマを定めた講話、英語の授業への講師としての参加など、部活動以外でも生徒にとってよい経験となる。また、試合の補助を通して職場体験ができればよい。

[委員]

- ・プロのチームが地元にあるという価値を学校全体で共有してもらいたい。

(3) 専門部会の設置・開催について

[校長]

- ・専門部会については今後の話し合いの中で必要に応じて設置する。

(4) その他

[委員]

- ・現在懸念されるのが新型コロナウイルスによる対外的な活動の制限や県外生の受け入れ先の解決などである。次年度に当たっての受け入れ体制について専門部会をもうけた中で協議していきたい。県の教育委員会にも協力いただかないといけない。

[委員]

- ・下宿関連で公開できる情報があれば共有したい。

[校長]

- ・現在清滝で12名お世話になっている。
- ・次年度以降の下宿先について現在検討をしている。

[委員]

- ・一日体験学習が中止となる中で、他の高校もWebでの体験を行う。中学校での進路希望先の把握は難しい。同時に高校側にとっても希望者の人数把握ができないため、そこが不安である。

[委員]

- ・アイスホッケー以外にも明峰高校の魅力をPRできる部分がある。そこにも目を向けてほしい。
- ・女子中学生が重視するのは明るく楽しい雰囲気であると思う。生徒同士、生徒と教員間のコミュニケーションのよさを発信していけばよい。明峰だよりなどの中に、生徒自身の言葉を入れるとあたたかい学校だなと分かる。

[委員]

- ・下野新聞に掲載されたアイスボックスとの提携について全国紙で掲載できないか。難しいと思うが、アイスホッケー連盟の力を借りて配信できればよい。

[委員]

- ・オープンスクールがコロナの影響で本当にできるかは分からない。Webでの双方向的な対応はできないか検討してもらいたい。

[本校職員]

- ・オープンスクールに限らず、情報の不足が今年度問題になっている。そこでWeb上で生徒や保護者・先生方から質問を受けて答えていくような試みを考えている。

[委員]

- ・オープンスクールの様子を録画して発信するコンテンツにしていくとよいか。

[委員]

- ・小学校でも夢を持てる子供になってほしいという話しをしている。明峰に入ってプロになろうという志がある子が少ない。高校生にきてもらって実際に話をしてもらうなど、先輩方のメッセージに織り込めるとよいか。

[委員]

- ・市ではSDGsに関して連携しており、生徒から市の課題を挙げてもらっている。さらに大学と連携しながらその活動を広報していければと思っている。
- ・市でも取組はしているが周知が足りていないと考えている。

[委員]

- ・大学生の中に高校の魅力化に興味を持ち、取組について考えたいという学生がいる。有志を募って話し合うことを秋までに実現させていけるよう調整していきたい。

9 事務連絡【進行：事務局】

- (1) 次回、第3回学校運営協議会の開催について → 11月上旬を予定
- (2) 新任委員の事務手続きについて
- (3) その他

[県教育委員]

- ・新型コロナウイルスの影響下において、教育委員会としては警戒レベルに合わせた指針を出している。
- ・県のGIGAスクール構想の取組の一環として学校におけるICT環境の整備を推進していく。

[校長]

- ・新しいアイデアや観点をお話しいただけた。一日体験がないため他校もパンフレットを作っていると伺い、埋没しないよういただいたご意見を基にこれから活動していく。